

検査結果から子どもの理解と 具体的支援を考える



こんなお悩みはありませんか？

- ✓ 検査結果をもらっても支援に活かしきれない
- ✓ 子どもの困り感と検査結果が結びつかない
- ✓ 保育や療育で何をしたらよいかわからない
- ✓ 保護者への説明に自信が持てない

【講師】



小杉 裕子 先生 武蔵野大学 准教授

武蔵野大学人間科学部准教授。博士（言語学）、言語聴覚士、臨床心理士。専門は言語発達学・言語発達障害学。地域療育センターでの長年の臨床経験をもとに、子どもの発達理解と支援に関する研究・教育に従事。

【日時】

2026年8月27日（木）
10:00～12:00
（受付 9:45～）

【会場】

ペリエホール RoomAB
JR千葉駅直結



【対象】

保育士／幼稚園教諭
教育関係者
児童発達支援職員
放デイ職員 ほか

【研修内容】

1

検査結果をどう読むか

- ・K式発達検査
- ・田中ビネー知能検査
- ・WISC
- 「子どもの姿を想像する」視点を学びます

2

ケースから支援を考える

- 架空事例をもとに
- ・検査結果の読み取り
- ・困り感の整理
- ・支援方法の検討を行います

【この研修で得られること】

- ✓ 検査結果の見方がわかる
- ✓ 子どもの強みが見える
- ✓ 困り感の背景が理解できる
- ✓ 明日からの支援に活かせる

定員：100名 参加費：無料

申込方法：QRコードまたは下記URLより

<https://bringup-chiba.peatix.com/>



主催：Bring up ちば子ども発達センター

043-301-4570 （小山・天野・櫻井）

後援：千葉市



Bring up